

館長あいさつ

「なす風土記だより」第2号を発行する時期になりました。本年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響で、臨時休館や各種イベントの中止など資料館の運営にも大きな支障をきたした一年でした。宣言解除後も消毒の徹底や3密の回避など、利用者の方々にも大変ご迷惑をおかけしてしまいましたが、ご協力ありがとうございました。このような中でしたが、両館では職員一同の頑張りで粛々と業務をこなしてきました。その概要を紹介させていただきますので、ご覧いただければ幸いです。（上野修一）

新型コロナウイルス感染症予防による休館（今年は大変な1年でした）



休館中 寄贈図書の虫干しと整理作業

今年度は猛威を振るった新型コロナウイルス感染症により、資料館での行事や運営は変更を余儀なくされることとなりました。大田原市では、4月・5月の2か月間施設が休館対応となり、6月から平常の運営となりました。

平成31年度から改正文化財保護法が施行となり、地域との連携が重要視されるようになった地方の歴史資料館において、このような非常事態に集客や来館者へどう対応するか、また、どこまで対応ができるのかを考える機会にもなりました。資料館では、開館再開になった場合のガイドラインの作成やHP用の案内の作成など、多くの方に安心してご来館いただける準備を整えました。また、なす風土記の丘資料館では、市内の考古資料について、これまで公民館・その他公共施設に分散して保管していた資料について、発掘調査時の図面や写真もあわせて所在を確認し、資料の管理状況を見直しました。臨時休館日だからこそ、改めてたくさんの課題が見えてきました。（鈴木志野）

今年こんなことがありました

なす風土記の丘湯津上資料館では…

今年度は、秋季特別展は予定していたテーマを来年度に順延し、市所蔵の縄文時代の資料を再検討し一挙公開する、縄文展を開催しました。

なす地域学講座は、新型コロナウイルス感染症予防のため、密を避けるように人数制限を設け、会場を湯津上庁舎会議室に移し、席の配置などを工夫して開催しました。

また、11月からは昨年度に引き続き、小松原遺跡の学術調査を実施しました。その結果、推定東山道駅路と考えられる側溝を確認することができました。確認された竪穴住居跡と溝跡底面から、昭和50年頃に実施された第1次・第2次発掘調査でも出土した墨書土器と同じ「梨本」と書かれた土師器環が出土し、磐上駅家跡との関連も色濃いことがわかりました。（詳しくは5ページへ）（鈴木志野）

歴史民俗資料館では…

今年度は、新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でした。まずは毎年恒例のサツマイモづくり。今年から「農業体験フェスタ」として、畑の規模を広げての開催予定でしたが、畑づくりと植えつけは中止となってしまいました。また、今年度からなす風土記の丘湯津上資料館を会場に開催することとなった民俗企画展。展示会は開催できましたが、大金家文書を長く研究されてきた小貫隆久先生の講演会は、第3波の影響で急遽中止になりました。コロナ禍によって、大きく予定が変わってしまった一年間でした。

しかし、そのような中でも実施できた秋の収穫祭には、多くの方に参加していただきました。屋外のイベントで身体を動かし、気分転換になったようです。学び、楽しむための場を設けることも、資料館の重要な役割であると再認識しました。（宮澤友美）

農業体験フェスタ～サツマイモづくり～

今年度から、下侍塚古墳傍の三角畑で実施することになったサツマイモづくりですが、4月の畑づくり・5月の植えつけは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となってしまいました。10月の収穫祭も心配していましたが、無事に実施することができました。5月に講師の蜂巢耕平氏の指導のもと、職員で植えつけたサツマイモは順調に育っていました。

天候にも恵まれた10月24日、いよいよサツマイモの収穫です。当日は親子連れなど、31名の方にご参加いただきました。畑が広くなったため、時間内に全て収穫できるのか…と心配していましたが、大きなサツマイモが土から出てくると、子供たちも大喜び。皆さんのパワーで無事に収穫できました。

その後は、少し植えたサトイモも収穫し、この地域では「ジャッカジ棒」と呼ばれるイモ洗い用の棒でサトイモを洗ったり、講師の方から農作業や農具についての話を聞いたり、そして蒸かしたサツマイモも試食したりと楽しんでいただけたようでした。

(宮澤友美)



収穫祭のようす



収穫祭 講師蜂巢さんの講話

お知らせ

これからの歴史資料館とは

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため多くのイベント内容が変更になりましたが、来年度(令和3年度)も引き続き資料館では様々なイベントや展示会を企画しています。

来年度から、湯津上地区を中心に活動する史跡解説ボランティアの受入を予定しています。資料館や周辺の遺跡の魅力を伝えるために、学習しながら地域の魅力をアピールする活動などが主になります。ボランティア活動を希望する方、地域の歴史に興味関心のある方を対象にした講座『なす風土記サロン』も実施する予定です。

また、令和4年度には、なす風土記の丘資料館の開館から30周年を迎えます。常設展示のリニューアルや展示資料の更新なども検討しています。平成31年に文化財保護法が改正になり、地域づくりに貢献できる資料館の活用が示されるようになりました。地域の歴史文化に興味関心のある方々と二人三脚で、地域への想いをかたちにできる場を提供するのも、今後資料館の役割として求められることだと考えます。さらに事業を見つめなおしつつ、新たな事業を展開していきたいと考えています。

(鈴木志野)



平成4年開館当時のようす

大田原市なす風土記の丘湯津上資料館

国指定史跡 侍塚古墳、国宝 那須国造碑を中心に、日本で初めての発掘調査と、大田原市内で発見された資料を展示している考古資料館です。

〒324-0403 栃木県大田原市湯津上192

TEL 0287(98)3322 FAX 0287(98)3323

E-mail fudokiyuzukami@city.ohatawara.tochigi.jp

URL http://www.city.ohatawara.tochigi.jp/docs/2013082772084/



大田原市歴史民俗資料館

昭和30年代、湯津上地区で実際に使用されていた農具や民具を中心とした、大田原市内の民俗芸能を扱う民俗資料館です。

〒324-0403 栃木県大田原市湯津上194

TEL 0287(98)2151

URL http://www.city.ohatawara.tochigi.jp/docs/2013082772237/

